



以前のバージョン機能を使用したファイルとフォルダのリカバリ

ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

以前のバージョン機能を使用したファイルとフォルダのリカバリ.....	1
[以前のバージョン]機能を使用したファイルとフォルダのリカバリの概要.....	1
Microsoftの以前のバージョン機能を使用するための要件.....	1
[以前のバージョン]タブを使用してSnapshotコピーデータを表示および管理.....	2
以前のバージョン機能でSnapshotコピーを使用できるかどうかの確認.....	3
Snapshot設定を作成して以前のバージョン機能のアクセスを有効にする.....	4
ジャンクションを含むディレクトリのリストアに関するガイドライン.....	5

以前のバージョン機能を使用したファイルとフォルダのリカバリ

[以前のバージョン]機能を使用したファイルとフォルダのリカバリの概要

Microsoft の以前のバージョン機能は、Snapshot コピーを何らかの形でサポートしているファイルシステムで、それらが有効になっている場合に使用できます。Snapshot テクノロジは ONTAP に不可欠なテクノロジの 1 つです。ユーザは、Windows クライアントで Microsoft の以前のバージョン機能を使用して、Snapshot コピーからファイルとフォルダをリカバリできます。

以前のバージョン機能を使用すると、ストレージ管理者の手を借りなくても、一連の Snapshot コピーを参照したり、Snapshot コピーからデータをリストアしたりできます。以前のバージョン機能は設定できません。常に有効になります。ストレージ管理者が Snapshot コピーを共有で使用できるようにした場合、ユーザは以前のバージョン機能を使用して次の作業を実行できます。

- 誤って削除したファイルをリカバリする。
- 誤って上書きしたファイルをリカバリする。
- 作業中にファイルのバージョンを比較します。

Snapshot コピーに格納されているデータは読み取り専用です。ファイルに変更を加えるには、ファイルのコピーを別の場所に保存する必要があります。Snapshot コピーは定期的に削除されるため、以前のバージョンのファイルを残しておく場合は、以前のバージョン機能で格納されたファイルのコピーを作成しておく必要があります。

Microsoftの以前のバージョン機能を使用するための要件

CIFSサーバで[以前のバージョン]機能を使用する前に、この機能をサポートするONTAPおよびSMBのバージョンとWindowsクライアントの種類について確認しておく必要があります。また、Snapshotコピー設定の要件についても理解しておく必要があります。

ONTAPのバージョンの要件

以前のバージョンをサポートします。

SMBプロトコルのバージョン

Storage Virtual Machine (SVM) についてはONTAP、すべてのバージョンのSMBで[以前のバージョン]機能がサポートされます。

Windowsクライアントの要件

[以前のバージョン]機能を使用してSnapshotコピーのデータにアクセスするには、Windowsクライアントでこの機能がサポートされている必要があります。

[以前のバージョン]機能をサポートするWindowsクライアントに関する最新情報については、Interoperability Matrixを参照してください。

["NetApp Interoperability Matrix Tool"](#)

Snapshotコピーの設定の要件

[以前のバージョン]機能を使用してSnapshotコピーのデータにアクセスするには、有効なSnapshotポリシーがデータを含むボリュームに関連付けられ、クライアントがSnapshotデータにアクセスできること、およびSnapshotコピーが存在していることが必要です。

[以前のバージョン]タブを使用してSnapshotコピーデータを表示および管理

Windowsクライアントマシンでは、Windowsの[プロパティ]ウィンドウの[以前のバージョン]タブを使用して、Storage Virtual Machine (SVM) 管理者の手を借りなくとも、Snapshotコピーに格納されたデータをユーザがリストアできます。

タスクの内容

SVMに格納されたSnapshotコピーのデータを[以前のバージョン]タブで表示および管理できるのは、管理者が共有を含むボリュームでSnapshotコピーを有効にし、Snapshotコピーを表示するように共有を設定している場合のみです。

手順

1. エクスプローラで、CIFSサーバに格納されているデータのマッピングされたドライブの内容を表示します。
2. Snapshotコピーを表示または管理するマッピングされたネットワークドライブ内のファイルまたはフォルダを右クリックします。
3. * プロパティ * をクリックします。

選択したファイルまたはフォルダのプロパティが表示されます。

4. [以前のバージョン *] タブをクリックします。

選択したファイルまたはフォルダの使用可能なSnapshotコピーのリストが、[Folder Versions]ボックスに表示されます。表示されたSnapshotコピーは、Snapshotコピー名のプレフィックスと作成時のタイムスタンプで識別されます。

5. [* フォルダーバージョン：*] ボックスで、管理するファイルまたはフォルダーのコピーを右クリックします。
6. 適切な操作を実行します。

状況	操作
Snapshotコピーのデータを表示する	• 開く * をクリックします。
そのSnapshotコピーのデータのコピーを作成する	[* コピー (Copy)] をクリックします

Snapshotコピーのデータは読み取り専用です。[以前のバージョン]タブに表示されているファイルやフォルダに変更を加える場合は、変更するファイルやフォルダのコピーを書き込み可能な場所に保存し、コピーに変更を加える必要があります。

7. スナップショット・データの管理が終了したら **OK** をクリックして * プロパティ * ダイアログ・ボックスを閉じます

[以前のバージョン]タブを使用したSnapshotデータの表示と管理の詳細については、Microsoft TechNetライブラリを参照してください。

関連情報

"Microsoft TechNetライブラリ : technet.microsoft.com/en-us/library/"

以前のバージョン機能でSnapshotコピーを使用できるかどうかの確認

[以前のバージョン]タブからSnapshotコピーを表示できるのは、共有を含むボリュームに有効なSnapshotポリシーが適用されていて、ボリューム設定でSnapshotコピーへのアクセスが許可されている場合のみです。Snapshotコピーを使用できるかどうかを確認すると、ユーザが[以前のバージョン]機能にアクセスできるかどうかを確認するときに役立ちます。

手順

1. 共有データが存在するボリュームで自動Snapshotコピーが有効になっているかどうか、およびクライアントがSnapshotディレクトリにアクセスできるかどうかを確認します。 `volume show -vserver vserver-name -volume volume-name -fields vserver,volume,snapdir-access,snapshot-policy,snapshot-count`

出力には、ボリュームに関連付けられているSnapshotポリシー、クライアントのSnapshotディレクトリアクセスが有効かどうか、および使用可能なSnapshotコピーの数が表示されます。

2. 関連付けられているSnapshotポリシーが有効になっているかどうかを確認します。 `volume snapshot policy show -policy policy-name`
3. 使用可能なSnapshotコピーの一覧を表示します。 `volume snapshot show -volume volume_name`

SnapshotポリシーとSnapshotスケジュールの設定と管理の詳細については、[を参照してください](#)"**データ保護**"。

例

次の例は、「data」上の共有データと使用可能なSnapshotコピーを含む「data」という名前のボリュームに関連付けられているSnapshotポリシーに関する情報を表示します。

```

cluster1::> volume show -vserver vs1 -volume data1 -fields
vserver,volume,snapshot-policy,snapdir-access,snapshot-count
vserver  volume snapdir-access snapshot-policy snapshot-count
-----
vs1      data1  true          default        10

cluster1::> volume snapshot policy show -policy default
Vserver: cluster1

                Number of Is
Policy Name      Schedules Enabled Comment
-----
default          3 true      Default policy with hourly, daily &
weekly schedules.
  Schedule      Count      Prefix      SnapMirror Label
-----
  hourly        6         hourly      -
  daily         2         daily       daily
  weekly        2         weekly      weekly

cluster1::> volume snapshot show -volume data1

                ---Blocks---
Vserver  Volume  Snapshot              State      Size Total% Used%
-----
vs1      data1
        weekly.2012-12-16_0015  valid      408KB    0%    1%
        daily.2012-12-22_0010  valid      420KB    0%    1%
        daily.2012-12-23_0010  valid      192KB    0%    0%
        weekly.2012-12-23_0015  valid      360KB    0%    1%
        hourly.2012-12-23_1405  valid      196KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1505  valid      196KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1605  valid      212KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1705  valid      136KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1805  valid      200KB    0%    0%
        hourly.2012-12-23_1905  valid      184KB    0%    0%

```

関連情報

[以前のバージョン機能のアクセスを有効にするSnapshot設定の作成](#)

"データ保護"

Snapshot設定を作成して以前のバージョン機能のアクセスを有効にする

Snapshotコピーへのクライアントアクセスが有効で、Snapshotコピーが存在する場合

は、[以前のバージョン]機能をいつでも使用できます。Snapshotコピーの設定がこれらの要件を満たしていない場合は、要件を満たすSnapshotコピーの設定を作成できます。

手順

1. 以前のバージョン機能からのアクセスを許可する共有が含まれているボリュームにSnapshotポリシーが関連付けられていない場合は、コマンドを使用して、Snapshotポリシーをボリュームに関連付けて有効にします `volume modify`。

コマンドの使用の詳細については `volume modify`、マニュアルページを参照してください。

2. コマンドを使用してオプションを `true` に設定し、`-snap-dir` Snapshotコピーへのアクセスを有効にし `volume modify` ます。

コマンドの使用の詳細については `volume modify`、マニュアルページを参照してください。

3. コマンドと `volume snapshot policy show` コマンドを使用して、Snapshotポリシーが有効になっていること、およびSnapshotディレクトリへのアクセスが有効になっていることを確認します `volume show`。

コマンドと `volume snapshot policy show` コマンドの使用の詳細については `volume show`、マニュアルページを参照してください。

SnapshotポリシーとSnapshotスケジュールの設定と管理の詳細については、[を参照してください"データ保護"](#)。

関連情報

["データ保護"](#)

ジャンクションを含むディレクトリのリストアに関するガイドライン

以前のバージョン機能を使用してジャンクションポイントを含むフォルダをリストアする場合は、一定のガイドラインに注意する必要があります。

以前のバージョンを使用して、ジャンクションポイントである子フォルダを含むフォルダをリストアすると、リストアがエラーで失敗することがあります `Access Denied`。

リストアしようとしているフォルダにジャンクションが含まれているかどうかを確認するには、`vol show` コマンドでオプションを指定し `-parent` ます。コマンドを使用して、ファイルやフォルダのアクセスに関する問題に関する詳細なログを作成することもできます `vserver security trace`。

関連情報

[NASネームスペースでのデータボリュームの作成と管理](#)

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。